

9 こえ 声をかけながら世話(せわ)をしよう！ うんどう 運動もわすれずにね

子ウシからきみをみるとどのようにみえるか考えてみよう。子ウシにはきみがとても大きくみえるよ。そして危険(きけん)だと思うんだ。だから、子ウシをさわるときは、子ウシの眼(め)の高(たか)さにからだをあわせてね。つぎに上(うへ)からでなく、下(した)からやさしく手(て)を子ウシのあごの下(した)へさしだして、ゆっくりさわって、なでてごらん。そして、何(なに)をするにもかならず子ウシに声(こえ)をかけるんだ。かけ声(こえ)はベェーベェーというんだよ。いい子(こ)だねとほめることも大切(たいせつ)だ。子ウシはきみの言葉(ことば)や気持(きもち)がよくわかるんだ。

ブラシをかけよう

手の平(てひら)を上(うへ)にして、子ウシの口(くち)の前にそっとだすと、きみの指(ゆび)をなめてから、きつと力(ちから)強く乳首(ちくび)とおなじように吸(す)うよ。子ウシがきみに慣(な)れてきたら、背中(せなか)、お尻(しり)、肩(かた)、脇腹(わきばら)などにブラシをかけてやると、きみが近づくと、ブラシをかけてねとよってくるよ。ブラシがないときは、丸めた乾草(かんそう)や、軍手(ぐんて)などをした手(て)で直接(ちよくせつ)なでてやろう。ウシは寒(さ)さには強(つよ)いけど、暑(あつ)さに弱(よわ)いよ。マイナス20(ど)ぐらいまでなら真冬(まふゆ)の北海道(ほっかいどう)でも外(そと)で飼(か)っている牧場(ぼくじょう)もある。本州(ほんしゅう)の蒸(む)し暑い夏(あつなつ)では25(ど)を越(こ)すと食欲(げんたい)も減退(げんたい)するから涼(すず)しくしてね。熱射病(ねつしゃびょう)になって死(し)んでしまうこともある。

小屋(こや)と運動場(うんどうじょう)

一頭(いっとう)なら、1～1.5坪(つぼ)ぐらいの小屋(こや)と4坪(つぼ)ぐらいの運動場(うんどうじょう)があるといいね。でも、現状(げんじょう)に合わせて考え(かんが)ればいいよ。屋根(やね)とかべは板張(いたば)りでいい。正面(しょうめん)に子ウシの出入口(でいりぐち)、その脇(わき)に人工(じんこう)乳(にゅう)の飼槽(しろう)オケ、バケツやほかの容器(ようき)を置(お)こう。乾草(かんそう)、青草(あおくさ)のエサ入れ(えい)と水(みず)が自由(じゆう)に飲(の)めるバケツなどだ。小屋(こや)の下(した)は土(つち)がいいけれど、コンクリートでもいい。どちらにしても、しきワラをたくさん入れて、いつも乾燥(かんそう)状態(じょうたい)にしておくこと。毎日(まいにち)汚(よご)れた分(ぶん)をとりぞいて、しきワラを追加(ついか)する。少し(すこ)したまったら全部(ぜんぶ)のしきワラを交換(こうかん)しよう。汚(よご)れたワラは積(つ)み重(かさ)ねておいて、ときどき切(き)り返(かえ)すと完熟堆肥(かんじゅくたいひ)になるよ。





子ウシのつなぎ方.....

首にロープをかける方法もあるけど、子ウシでも100キロを超えると、小学生では引っぱられてしまうよ。それでモクシ（頭絡。33ページの写真をみてね）をかけよう。これだといじょうぶだ。ロープの長さは5メートルくらいがいい。木にしばりつけると木が傷むので、1メートルくらいの鉄棒を深く木づちで打ちこんでつなぐ方法がいい。

運動は.....

できるだけ運動場にだしてあげよう。柵に囲まれた運動場ならつながなくていいよ。運動場がなければ、子ウシにモクシをつけて、絡まないようにグルグルまわるナスカン付きのロープ（33ページの写真をみてね）で青草のある場所につないであげよう。きれいに道端の草も食べてくれるよ。

好きな草は.....

チモシー、オーチャード、メドフェスク、ペルニアルライグラス、白・赤のラジノクローバーの牧草類だけど、タンポポ、ヨモギ、フキ、オオバコ、ヨメナなど雑草類が混ざっていてもいいよ。毒草についてはウシ自身が選ぶからだいじょうぶだよ。牧場に梱包された乾草があるので、それを分けてもらって主食にし、学校周辺の草を副食にするといいね。